

森林による防災・ 減災技術の国際展開

2024年 **1**月 **31**日(水) **13:00-17:00**

TKP ガーデンシティ PREMIUM 神保町 & オンライン

日英同時通訳 (会場では18時まで参加者間の意見交換が可能です)



http://redd.ffpri.affrc.go.jp/events/seminars/2024/20240131_ja.html

主催

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所

後援

林野庁、環境省、内閣府政策統括官(防災担当)
独立行政法人 国際協力機構

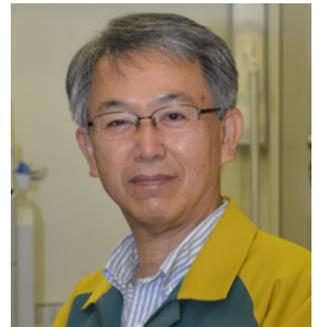


セミナー趣旨

日本は、台風や梅雨による豪雨も頻発する気候帯にあるため、頻繁に山地災害に見舞われてきました。その一方で森林や樹木には山地災害の発生を抑制する機能があり、それらを活用した治山技術が開発され、実施されてきました。このような技術を発展途上国などにおいて適用することにより、流域下流における対策に加えて流域上流における対策が相対的に低コストで実施でき、全体としてより効果的な気候変動適応策となることが期待されます。森林総合研究所では、令和2年度から我が国の民間企業等による森林防災・減災技術の国際展開を支援することを目的に、研究・技術開発を進めてきました。今年度の国際セミナーでは日本大学の阿部和時特任教授から森林の根系が防災減災に果たす役割について基調講演をいただくとともに、森林総合研究所によるベトナム北部山地での研究成果や国際機関及び日本政府などの資金を使った国際展開での課題や可能性に関する調査結果を紹介します。そして海外からの登壇者による現地からの展望をフィードバックし、森林による防災・減災技術の海外展開における今後の可能性や課題について議論します。

基調講演者 阿部和時（日本大学特任教授）

日本大学農獣医学部林学科卒業後、森林総合研究所（当時、林業試験場）に入庁し、森林の崩壊防止機能など森林の多面的機能に関する研究、治山事業に関連する研究に従事。1993年、「樹木根系が持つ斜面崩壊防止機能の評価方法に関する研究」で博士号取得。その後、JICAブラジル・サンパウロ州森林・環境保全研究計画、及びJICA黄土高原治山技術訓練計画に従事。2005年より日本大学にて教育・研究に携わっている。



プログラム概要

開会挨拶

浅野（中静）透（森林総合研究所 所長）

来賓挨拶

林野庁より（予定）

セッション1：基調講演 森林根系による防災・減災機能の科学的評価

阿部和時（日本大学）

セッション2：日本の治山技術の国際展開

古市剛久（森林総合研究所）
岡本 隆（森林総合研究所）
村上 亘（森林総合研究所）

セッション3：途上国でのF-DRR技術の適用ニーズと可能性

Dr. Vu Tan Phuong（ベトナム森林認証事務所 VFCO）
Prof. Dr. Yongyut Trisurat（タイ カセサート大学）
Ms. Sunshine Telio（フィリピン コンサベーション・イノベーション・センター）
小西力哉（国連食糧農業機関 FAO）

セッション4：パネルディスカッション

基調講演者、セッション登壇者が参加